

- 1 実施学年及び教科・領域
小学校第6学年 社会科

- 2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 今に伝わる室町文化

(2) ねらい

① 学習指導要領との関連

本単元は、小学校学習指導要領の第6学年の内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する」における「京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解すること。」を受けて設定した。また、「遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること」を受け、本単元では、歴博のWEBギャラリーを活用しながら、足利義満は金閣を、足利義政は銀閣をそれぞれ建てたこと、それらは現在も保存されていることや、銀閣の東求堂の書院造といわれる部屋の作りには、現在の和風建築に生かされていることなどについても扱う。WEBギャラリーの高精細画像を活用していくことで、詳しく観察したり、調べたり比べたり結びつけたりする活動を活発にし、より社会的事象の見方・考え方を働かせることができるようにすることをねらう。

② 単元の目標

- ・京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解する。(知識及び技能)
- ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産に着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- ・室町文化に対する予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 博物館との関連

① 活用方法 非来館型活用

② 活用資料 洛中洛外図屏風床置きパネル

洛中洛外図屏風復元複製床置きパネル

洛中洛外図屏風WEBギャラリー高精細画像

(4) 指導観

小学校6年生の歴史の学習では、室町時代の単元が文化の学習として設定されており、室町幕府や、応仁の乱といったことはほとんど学習しない。学ぶ内容が現在につながる書院造や水墨画、茶の湯、能・狂言といったものであり、子どもたちにとって興味をもってとりくむことが難しいとすることがある。教科書を見てみると、七十一番職人歌合や祇園祭礼図屏風なども載ってい

て、これらの資料は関心をもって取り組むことができそうだと感じた。このことから、当時の人々や行事に着目することで室町文化への関心につなげていきたいと考えた。今回は「洛中洛外図屏風（歴博甲本）」を使用し、室町時代の人々や行事に着目した授業を行うことにした。

洛中洛外図とは、鳥観図として描かれた京都の絵であり、今日 100 点ほどの作品が知られている。そのうち、歴博甲本、東博摸本、上杉本、歴博乙本と呼ばれる 4 点は、戦国時代の 16 世紀に描かれたもので、残りは 17 世紀以降の江戸時代に描かれている。今回活用した歴博甲本は現存する洛中洛外図の中では最古のもので、16 世紀前半の作品と考えられている。これまで博学連携研究員として、近世や現代などの歴博の資料を使って授業を行ってきたが、中世、室町時代については取り組んだことがなかった。特に洛中洛外図屏風については取り組んでみたい資料の一つであり、この授業を行った理由の一つでもある。

歴博では、学校向けに貸出教材があり、今回は洛中洛外図屏風の床置きパネルと、ウェブで利用できる高精細画像を活用した。近年ではこれらの教材に関連した動画コンテンツもウェブ上で見られるようになってきている（以下 URL 参照）。

[教室で使えるもの](#) | [学校の先生へ](#) | [学習の場](#) | [国立歴史民俗博物館 \(rekihaku.ac.jp\)](#)

今回の授業では学習の前半で建物や行事について着目し、学習の後半では室町通りを中心とした通りの人々や店などに着目して文化について考えていくことにした。

3 指導計画（6 時間扱い）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	洛中洛外図屏風（床置きパネル）を見て、変だなあ探しをして、学習問題を立てる。	□屏風の見方を説明し、洛中洛外図屏風（床置きパネル）に関心をもって観察できるようにする。 ■感想で、室町時代の文化について知りたいことや疑問をまとめられたか。 〈ワークシート、主体的に学習に取り組む態度〉
		室町時代の文化はどのようなものだったのだろうか。どのような人々がいたのだろうか。	
展開	2	前時に疑問点として挙げたところを確認し、どこに書いてある場面か場所を確かめ、学習計画を立てる。	□第 1 時での疑問から話し合いを進め、内容を整理して学習計画が立てられるようにする。 ■資料から室町文化についての疑問点を出して話したり、書いたりできたか。 〈行動の観察・ワークシート、思考・判断・表現〉
	3	人物や建物、行事など、より詳しく知りたいことについて調べる。	□タブレット端末で洛中洛外図屏風（高精細画像）を使って、人物や建物に着目したり、行事に着目したりして調べるようにする。 ■資料から必要な情報を集め、室町時代の人々の職業や建物の様子、行事の様子について理解できたか。 〈発言・ノート、知識・技能〉
閉	4		

ま と め	5	室町時代の文化について考えたり調べたりしたことを話し合い、か るたをつくる。	□洛中洛外図屏風について調べたことを もとに、友達と話し合っ、文章にまと めたり、自分の作品を作ったりするよう にする。
	6		■これまで調べたことを比較し、関連付け たり総合したりして、室町文化について 考え、自分の考えを表現できたか。 〈ワークシート、思考・判断・表現〉

4 実践の概要

(1) 洛中洛外図屏風床置きパネルを見て、変だなあ探しをする。

歴博の貸出教材を体育館に広げ、自由に見させた。今回は洛中洛外図屏風の床置きパネルと、復元複製床置きパネル(原本のデジタルデータを元に、オリジナルの部分を生かし、傷の欠損を補い、色彩を制作当初に近いものに戻すことを試みて、復元したものを複製したもの)を使って細かいところまで見ていった。復元はきれいに処理されており、大変見やすかった。

○第1時の振り返りから

- ・洛中洛外図屏風を見て、鳥居や神社が今の京都あたりにたくさんあった。今の京都は神社が残っているのか知りたくなった。(YH)
- ・行事や人、建物、店など調べていくけれど、私は行事について気になった。季節によってやっていることがちがうのか、今もやっているものはあるのか知りたいなと思った。(IR)
- ・武士かはわからないけれど、人が集まって話をしていたのが少し気になった。室町時代にも武士はいるのか知りたい。でも鎌倉時代の武士の世の中というよりか、貴族の人が中心な気がする。いろいろ見られて楽しかった。(YA)
- ・洛中洛外図屏風には、いろいろ不思議に思うところが多かった。今でも行われることをしていた。家は大体同じだけれど、えらい人だけがちがい、わかりやすかった。(KM)
- ・まだ室町時代にも寝殿造りがあったのにおどろいたので、建物について調べたい。また、そのときの行事などもくわしく調べていきたい。(SY)
- ・昔の人はいろいろなことをやっていた。その中でも行事をいっぱいやっていた。例えばお祭りや、儀式みたいなことをやっていた。他の人が言っていた子どもや銭湯、季節などに気づけなかったから、それもふまえてもう一回見たいなと思った。(KH)
- ・室町時代にはどのような職業があったのかが知りたい。次が楽しみです。(TR)
- ・室町時代では、何が行われていて、何をしていたのか知りたい。文化や行事はどのようなことがあり、問題なく行われていたのかを学んでいきたい。(AK)

建物や人に着目していることがわかるが、まだ見る時間が必要だと感じていることがわかる。自由に見させたことで、興味がかなり分散してしまった。もう少し観点を絞ったほうがよいとも感じるが、こういった大きな屏風絵を細かく見るのは初めてであったので、よく見る練習も大切だと考えると、この時間は必要だったと思う。実際に、江戸時代の学習で江戸図屏風(床置きパネル)を見た際にはとてもスムーズに取り組み、授業が盛り上がった。



床置きパネルを観察する子どもたち

(2) 前時の疑問を生かし、学習計画を立てる

第1時の最後に床置きパネルを見て、疑問に感じた点をワークシートに書いてあり、子どもたちが疑問に思った場面を、高精細画像からスクリーンショットを取り、子どもたちに提示した。それらの場面がどこに描かれているか確認しながら、もう一度床置きパネルを見た。興味が広がっていたところをこの時間で少し整理して、場面を絞っていった。

○第2時の振り返りから

- ・洛中洛外図屏風がなぜかかれたのか知りたい。(SY)
- ・平安時代のときは、あんまりお風呂に入る習慣がなかったけれど、室町時代には、みんなでお風呂に入っていて、いつから入るようになったのか気になりました。(KH)
- ・洛中洛外図屏風をもう一度見て、最初に見たときにわからなかったことがあって、見られてよかった。職業では、布に何か書いてあったりしたから、それと関係があると思う。(YS)
- ・前はたくさん見るところがあって見きれなかったけれど、今回はみんなの疑問に沿って見たから、不思議と思うところがたくさんあった。人を注意深く見ると、刀を差している人やきれいな着物を着ている人など、いろいろな人がいて、びっくりした。(IY)
- ・行事や建物は何があるかはわかるけれど、職業は調べないといけないし、行事は何をしているのかわからないので、これから調べて、知ってみたいです。(IR)
- ・洛中洛外図屏風は、当時の生活についてよくかかれていたからとてもおもしろかった。特に目がいったのは、お寺や神社がたくさんあったことで、それは何かわけがあるのか気になった。(SK)
- ・貴族中心の世の中だと思っていたけれど、幕府って言っているから武士もちゃんといるのだなとわかった。金閣寺はわかりやすかったけれど、銀閣寺とはわからないなと思った。次はもっと詳しく見てみたい。(YA)
- ・前の学習から、室町時代は気になっていたけれど、今日の学習でさらに興味がわいた。約1400人の人たちを全員見ていくのは大変そうだけど、見てみたい。(TR)
- ・鎌倉時代に比べて、大分不思議なことが増えたと思います。どんな店があったかや、どんな人がいたのか気になりました。屏風をもう少しじっくり見て、どのような時代だったのかももう少し考えてみようと思いました。(SN)

第1時に見たときはわからなかったことが、もう一度観点を整理して見てみるとわかったり、疑問が出てきたりしている。店ののれんのマークに注目したり、人々の服装や持ち物をよく見たりして、違いがあることに気付き、自分なりの予想をし始めている。この後、タブレット端末を使って高精細画像から考えるきっかけになったと感じる。

(3) 洛中洛外図屏風に描かれている行事や建物について調べる

歴博ホームページのウェブギャラリーから、[歴博電子企画展] 洛中洛外図屏風(歴博甲本)のページを活用して、子どもたちが疑問として挙げていた寺社や建物、行事といったものを調べていった。このページは、テーマ別にまとめられており、それぞれの場面が何について描かれているのか平易な文章で説明されていて、大変わかりやすかった。

洛中洛外図屏風(歴博甲本) 【 寺 院 】



8. 清水寺「きよみつ」(右2)

坂上田村麻呂による開基と伝え、朝廷・幕府の保護を受け、また観音霊場として貴族・庶民の信仰を集めた。洛外の代表的な名所であり、有名な本堂(舞台)、子安の塔、音羽の滝などが見えている。たびたび兵火にかかり、現在の本堂などは、同じ様式だが大部分が徳川家光による再建である。

洛中洛外図屏風(歴博甲本) 【 行 事 と 芸 能 】



3. 祇園祭—長刀鉾 なぎなたほこ(右1)

祇園祭の鉾の一つ。1500年(明応9)に祇園会が再興されてから、巡行順がくじ引きになっても、「くじ取らず」と言われて常に祭りの先頭を行く。長刀の刃先は、祇園社と内裏には向かないように動くという。

洛中洛外図屏風(歴博甲本) 【 行 事 と 芸 能 】



1. 観世能「くはんせのう」(右1)

観阿弥・世阿弥に始まり、幕府の保護も受けた観世座の能舞台。壁面の全くない簡素な板葺き屋根の舞台のまわりを男女の観客がとりまき、屋根もない橋懸りを二人の役者が進んでいる。舞台の周囲は板塀で囲われ、木戸の脇には役者のものかと思われる紋が描かれている。

[歴博電子企画展] 洛中洛外図屏風(歴博甲本)では、寺院 / 神社 / 邸宅 / 通りと町並み / 行事と芸能 / 仕事としぐさ / 山と川、道と橋と村 というように分類されており、右3(右隻3扇)のようにどこに描かれているかも明示されている。調べ学習で活用するには大変便利であり、江戸図屏風などでもこういった分類がされることを期待したい。

歴博ウェブギャラリーより 清水寺 祇園祭 観世能

(4) 室町通りを中心として、人や店に着目して調べる。

歴博ホームページにある高精細画像を使って室町通りの人や店に着目して、関心のあるものをピックアップさせた。2人組を組み、おもしろいと思うものを取り上げながら、わかるものよりもよくわからないものについて、予想しながら楽しむ様子が見られた。

第4時に調べ、予想したことなどはタブレット端末で提出させておいた。洛中洛外図屏風については、描かれている人物がデータベース化されており、どのような人物かわかる。本来は子どもたちに一人一人調べさせたかったが、この人物データベースのページが子どもたちの端末では

フィルターがかかってしまい、閲覧できなかったのが担任が調べ、プリントにして配付した。店についてはクラスで話し合い、何の店なのか予想した。

○第3時、第4時の振り返りから

- ・家などをこわしている人がいて、大工かなと思いました。店をたてて売っている人じゃなくて、自分で歩いて売っている人がいて、とても大変そうだなと思いました。昔の人はいろいろなことをやっていて、なんか楽しそうだなと思いました。(KH)
- ・いろいろなお店を見つけたけれど、売っているものでだいたい予想できるものがあった。のれんにかかっている絵も見てみると、なにか関係がありそう。(YA)
- ・自分が見ていた中で、動物が多いなと思いました。室町通りでは動物を使った仕事が気になったので、調べてみたいと思いました。(SH)
- ・人に注目すると何か報告している人や、たくさんの何かを背負っている人がいるなど、不思議な人が多くいた。今回は注目できなかったけれど、不思議な建物もたくさんあり、人と一緒に注目することで当時の生活について考えられるかもしれないと思った。(SK)
- ・いろいろな人がたくさんの仕事をしていて、中にはだいたいこんなものかなと予想がつくものもあれば、なんだか予想もつかないものや仕事があり、この室町通りでは仕事がたくさんあることがわかった。(TN)
- ・おもしろそうなものはいっぱいあったけれど、何かがわからないものが多かった。魚屋や床屋、八百屋はわかった。この時代にもくしがあることにおどろいた。(SM)



入れ物売ってる？



米とかをはこんでいる？



なにかを運んでいる。宅配のひと？



大工？

子どもたちが予想した店や仕事、活動

たくさんの人がいて、いろいろな仕事があることを理解している。店も現在のように店を構えるだけでなく、振売のように売り歩いている人がいたこともよく理解している。店に置いてあるものからどのような店であるのか予想することもできている。それでも子どもたちはまだわからないことが多いというように、洛中洛外図屏風のもつ資料としての力が小学生にも魅力あるものであると感じた。この単位では、思い切って「人」だけに着目してじっくり取り組むことで、子どもたちの疑問を引き出すことができたかもしれないと反省している。

(5) まとめの文章を書き、かるたづくりをする

これまで学習してきたことから、この学習をふり返った文章を書き、かるたづくりをした。以下に3人の考えを紹介する。これらの文章から洛中洛外図屏風を活用した学習で、どのようなことをつかんでいるか考えてみたい。

- ・最初に洛中洛外図屏風を見たときは、誰が何をしているか、どんな人なのかなど、わからないことだらけだった。でも今ではどんな人か、どんな行事か、どんなお店かなどわかるようになった。とくに、ホームレスのような人や貴族のような人、武士、旅人などいろいろな人がいておもしろかった。他にも、行事や建物、お店などいろいろあっておもしろかった。このようなことから、室町時代のこの町はいい町なのだなと考えている。(N0)
- ・平安時代にはなかった風呂があつてびっくりした。一つ一つの家に風呂がある様子はなかったから合同だと思った。平安時代にあった寝殿造りだけでなく、書院造というつくりの建物もできていた。室町時代の文化は現在とつながりの深いものが多いと思った。室町通りでは店がたくさんあつてライバルが多いなとも思った。人も頭に炭をのせている人や、牛を連れている人などがいて、現在とは全く違うと思った、着ている服も貴族や武士などで全く違った。(IY)
- ・洛中洛外図屏風を見て、室町通りにはいろいろな店があつたり、人がたくさんいたりして、とてもにぎやかな町だと思った。お店はいろいろあつたけれど、今の時代にもあるお店と今はなかったり、少なくなつたりしているものがあるから、室町時代でどのようなくらしをしていたのかがわかると思う。人はいろいろな人がいて、水をくんでいたり、頭に何かをのせたりしていておもしろい。今まで、お店の近くに白い布があり、何かがかかれていたから、売っているものと関係があると思っていただけれど、関係があるところとないところがあることがわかっておどろいた。(YS)

Nは洛中洛外図屏風を活用したことで、多くの人々が生活していたことをつかんでいる。特に身分が違ういろいろな人がいることに着目している。また、室町時代のこの町を「いい町」と捉えている。室町時代の通史を学ぶことで、歴博甲本では幕府も描かれているが、幕府の力の大きさをすることで位置づけも変わってくると思う。Nの捉え方はもう少し変わるかどうかに興味深い。

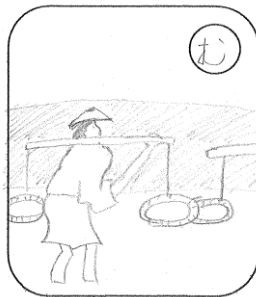
Iはクラスでも多くの子どもが興味をもった風呂の場面について言及している。平安時代の学習をしたときに、風呂に入るという習慣はなかったことから、その変化について捉えている。それでまだ湯船につかるというよりは今のサウナに近いということを知って驚き、共同であることにも着目した。室町通りの様子では、店が多くあるということからにぎわっているということをつまねながらも、それを「ライバルが多い」と考えているところに表現することに驚かされた。また、物の運び方や動物の活用、服装などの現在との違いというように、Iは前の時代や現代と比べることで室町時代を評価している。

Yは上記の二人と同様ににぎやかな町であると考えている。また、店などの様子から、人々のくらしがどのようなものだったのか考えることができると述べているように、洛中洛外図屏風を活用したことで、人々のくらしの様子にまで想像を広げることができている。また、のれんを見ることがどのような店かわかるのではないかと早くから着目していたが、のれんが関係ある場合とそうでない場合があるということを知り、大変驚いていた。江戸時代になると、のれんで何の店かなりわかるようになるので、江戸図屏風を活用した授業ではそこから考える様子があった。

3人の文章から、洛中洛外図屏風を活用したことで、室町時代の京都にはいろいろな身分の人々がいて、風呂の習慣など現在にもつながるような生活があつたということが捉えられたことがわかる。店も各種多様なものがあり、店を構えるだけでなく売り歩くというような方法がある

ことも知ることができた。通史は学習していないものの、室町時代を前の時代や現代と比較しながら評価することができたと感じる。

下記のかるたについても同様に多くの人々が暮らしていて、様々な活動があったことを捉えることができている。振売や大工、牛を使った運搬など仕事についても多様なものがあったことが理解できた。



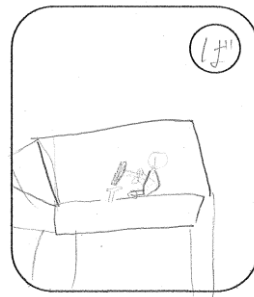
む



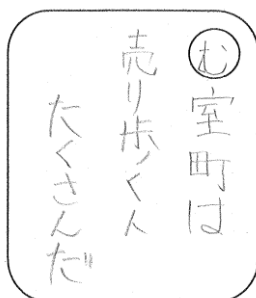
な



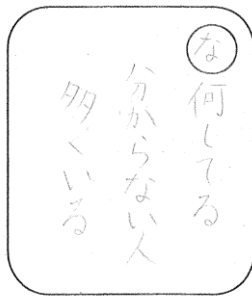
ど



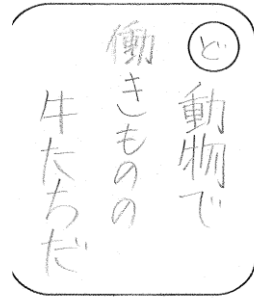
ば



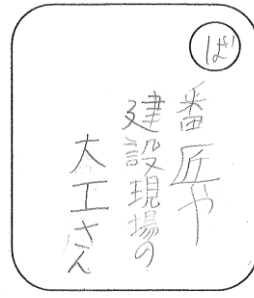
む



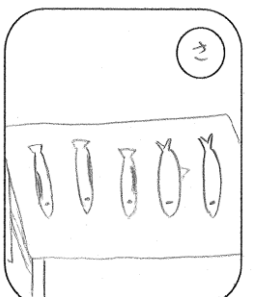
な



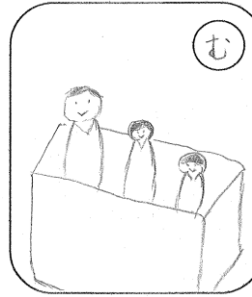
ど



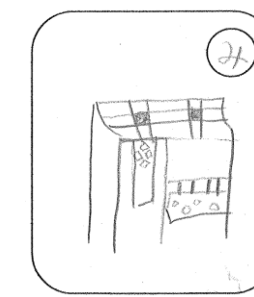
ば



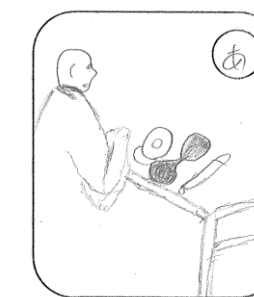
さ



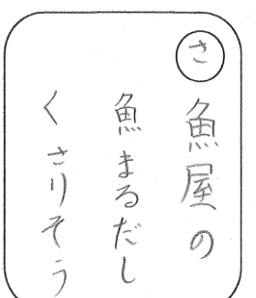
む



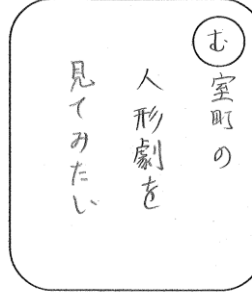
み



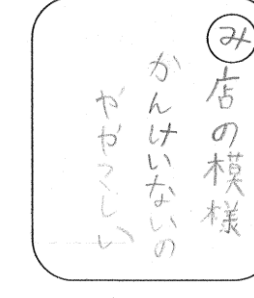
あ



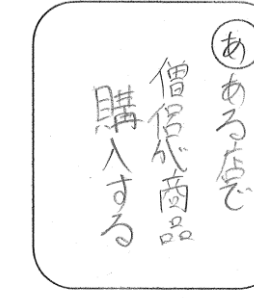
さ



む



み



あ

かるた左上から

- ・室町は 売り歩く人 たくさんだ
- ・動物で 働きものの 牛たちだ
- ・魚屋の 魚まるだし くさりそう
- ・店の模様 かんけいないの ややこしい
- ・何してる 分からない人 多くいる
- ・番匠や 建設現場の 大工さん
- ・室町の 人形劇を 見てみたい
- ・ある店で 僧侶が商品 購入する

5 成果と課題

(1) 成果

- ・洛中洛外図屏風を中心として室町時代の学習を行ったことで、室町文化に関する関心を深めることができた。多くの人々がいて、様々な仕事があり、多くの行事があったことを捉えることができた。
- ・洛中洛外図屏風という資料をじっくりと見ることで、資料を観察する力は養えてきたことがその後の授業で感じるが多くあり、成果といえる。
- ・床置きパネルで屏風を見るという活動により、子供たちの中に疑問が芽生え、その後の学習で追究していこうという意欲化につながるとともに、資料自体の魅力を味わうことができた。

(2) 課題

- ・洛中洛外図屏風という資料をよく見ることはできたが、何をねらった学習なのかがはっきりとしなかった。単元の構成にも問題があるが、室町時代をどのように捉えるかという点では難しいと感じることも多かった。
- ・鎌倉時代から室町時代へと移り変わっていく通史を学習していなかったり、応仁の乱などについても説明する必要があったりというように、通史の中で扱おうとすると小学生には難しいものになってしまう。だからこそ小学校では室町文化に特化した単元構成になっているとも考えられる。
- ・場面も「人」に絞ってじっくり考えさせることで室町時代（室町文化）を捉えるようにした方がねらいもはっきりとした授業になったのではないかと考える。資料のもつ魅力は十分感じることができたので、小学生で洛中洛外図屏風をどう扱うかということをこれからの課題としたい。

<参考文献>

- ・水藤真 (1999) 『歴博ブックレット⑪ 歴博甲本 洛中洛外図屏風を読む』財団法人 歴史民俗博物館振興会
- ・小島道裕 (2016) 『洛中洛外図屏風 つくられた<京都>を読み解く』吉川弘文館
- ・国立歴史民俗博物館 国文学研究資料館 (2012) 『平成 23 年度人間文化研究機構連携展示 都市を描く ―京都と江戸―』大学共同利用機関法人 人間文化研究機構